

“Heart to Heart”

第17巻 第1号 (No.50)

発行日 2022年8月1日

心から心へ わかちあう あたたかさ

大人の聞く力と子どもの話す力

武蔵野東教育センター所長
計野 浩一郎

目次:	
大人の聞く力と 子どもの話す力	1
療育プログラムのようす	2/3
コラム: 教えてもらったこと (1) 知識と経験	4
ご案内	4

長引くコロナ禍の影響で経済的にも心理的にも余裕のない状況に置かれている人たちが、世間には多くおられます。特に子どもたちへの影響は計り知れないものがあります。このような時こそ、様々な立場の人たちが同じ方向を向いて、すべての人たちが安心して生活できる社会をつくるために連携、協力していく必要があります。

子どもたちにとっては、生活の場である家庭は、何より心が落ち着き、居心地のよい場所であればいけません。「自分は愛されている」「自分は受け入れられている」と子どもが感じる事が大切です。人生経験が未熟な子どもたちにとって、世の中のほとんどは知らないことばかりです。知らないということは不安であり怖さを伴い、ストレスを感じるものです。大人でも新しい何かになじむには時間がかかりストレスも感じます。そのためにも、大人の聞く力と子どもたちの話す力の伸長は欠かせないこととなります。

言葉の未熟な子どもは単語だけを発しがちで、親のほうもそれに慣れていて、単語で意図を承知してしまいます。しかし、それは親子関係だからこそ成立するわけで、社会の中では通用しません。きちんとセンテンスをしゃべり終える力がないと、人間同士のコミュニケーションや意思疎通が成り立ちにくくなります。まず、親は意識して5W1Hが整うように、「それはいつのこと?」「誰と?」「どこで?」「何をしたの?」「どうして?」「どんなふう?」と質問を挟むことで、子どもが論理的に話せるようにリードしていくとよいと思います。さらに、読解力をつけることが重要です。その

ためにはまず話す力を習得することが大事です。読解力といえば、つい読ませることばかり考えがちですが、子どもによく話をさせて、それをよく聞いてやることで読解力は自然に高まっていきます。読解力をつけるというのは論理的に物事を捉え、それを表現する力。自分で言いたいことがちゃんと相手に伝わるようにしゃべれるということが読解力の基礎につながっていきます。

自分で言いたいことがきちんと相手に伝わるようにしゃべることとともに、しっかりとしたセンテンスを話せることが大切です。子どもによく話をさせて、それを根気よく聞いてあげることが、読解力向上の秘訣ともいえます。先にも書きましたが、5W1Hを意識して質問を挟むと、子どもは論理的な話ができるようになります。「へーそうなの、いつのことなの?」「なぜ、そうなっちゃったのかな?」「誰がそれを言ったの?」また、短くまとめてやることも大切。「○○のコツは、△△ってことなのかな?」「なるほど、こういうことなのね」とわかりやすく、短くまとめてやることで、子どもは「こうやって話せばいいんだ」と、一層思考を深めることができます。先走りは禁物です。「それはこういうことでしょ?」「はやい話が、こうなるわけね」と決めつけてしまうと、子どもの考える力はそれ以上伸びません。「こういうふうにするのかな?」とじっくり子どもの言葉を待てば、ゆっくり時間をかけて答えが返ってきます。

長い夏休みです。たまには子どもたちとしっかりと向き合う時間を作って、言葉の発達を促していけるとよいですね。





療育プログラムのようす 【各教室・言語プログラムの様子】

音楽教室 ロックに興味がある子どもたちとエレキギターを演奏しています。エレキギターはアコースティックギターよりも弦と指板の距離が近いので、初心者でもコードを押さえやすいという利点があります。アンプから出てくるエレキギターらしい歪んだ音を綺麗に響かせるには、不要な弦を鳴らさないようにミュートする必要があるため、細かいコントロールに挑戦中です。(平瀬戸)



レッツ ロックンロール!

幼児絵画造形教室 クレヨンと絵の具を使って自分の顔を描いてみました。はじめに、鏡に映る自分の顔をよく見て、「鼻は顔の真ん中で、目はその隣で、顔は卵の形かな？」などと確認をして真っ白な画用紙に描いていきます。ペールオレンジの絵の具で顔を塗った後、少しだけピンクを足してみると、ほんわり、ふっくらとした、かわいいほっぺになりました。(本田)



かわいいほっぺでしょ!

リズムブ教室 音やリズムを聞いて体をすぐに反応させられるよう、最初に様々な動きを取り入れたサーキット運動を行っています。毎回少しずつ内容が変わるため、皆楽しみに参加しています。今月は小さな障害物が置かれた平均台の上を慎重に歩いたり、床に置かれたアーチを頭やお尻がぶつからないよう注意してくぐったりする活動が人気でした。ワクワク感を楽しみながら体の使い方を学んでいます。(高橋)



アーチの下をそっとくぐるよ

体育教室 小学生は跳び箱に挑戦しています。この運動は、助走、踏切、支持、着地を一連の動作の中で行うことで達成できる課題です。「助走を生かして力強く踏み切ること」「手は遠くにつく」「お尻を上げて跳び箱を突き放す」など様々なことを意識させながら練習しています。繰り返しの練習により、「跳べた!」と喜ぶ子どもたちの笑顔は最高です。(菊池)



大きな壁を越える

コンピュータ教室 ペイントのソフトを使った課題に取り組んでいます。ブラシを使って絵を描くだけでなく、図形ツールを組み合わせて絵を描いたり、画像をトリミングしたり、画像に文字やイラストを入れたりしています。マウス操作がうまく行かずに苦戦する課題もありますが、そういった手先の操作を高める練習も兼ねつつ、パソコンのスキルを身につけています。(本村)



いちごに顔を描こう

ダンス教室 毎回欠かさず続けているストレッチ。ポイントは呼吸をしながら行うことです。担当者の「吸って、吐いて」の号令に合わせて体がより柔軟になるよう努力を続けています。前屈でお腹が床についている友達を見て、「わたしも頑張ろう!」と意欲を見せる子も見られます。仲間と切磋琢磨しながら取り組む姿に成長を感じました。(益田)



痛いけど…頑張っています!

言語プログラム ジェスチャーゲームをすることがあります。出題者は声を出してはいけなくて、むしろことばの練習の対極にあるもののようにも思えますが、「相手の動きから相手の意図を読む」という練習は、発話の基礎となる非言語コミュニケーションが苦手なお子さんにとって重要なトレーニングになります。ご家庭でも気軽に取り組んでみてください。(長田)



「何の楽器かな?」

SST教室 5.6年生は、2人組で1~2分間決められたテーマに沿って会話を続ける活動を毎回取り入れています。会話を楽しく続けるためには、相手の顔を見て話す、傾きながら話を聞く、適切なタイミングで相槌を打つなど、細かいテクニックが求められます。練習を重ねるにつれてみんな上手に会話を続けられるようになり、質問の幅も広がってきました。(柳澤)



会話の練習



【スクールプログラム・ラーニングプログラム】

幼児 季節は夏！ということで、かき氷、スイカ、花火、朝顔など夏を題材にした製作に取り組みました。年中クラスは、折り紙やシール、手形スタンプなどで飾ったうちわを作りました。作ったうちわで先生や友だちと互いにおおぎ合せて遊んだり、テーブルの上に置いたティッシュが自分の方に落ちないようにあおいで防ぐゲームをしたりして楽しみました。(益田)

1年生 音楽の授業で、リズムよく手拍子をする活動に取り組んでいます。「ポンポンポップコーン」という曲に合わせて、「ポンポンポン」「ポンポポポン」と、歌詞によって異なるリズムで手を叩いています。いくつかのリズムを叩き分けることに苦戦していますが、何度も練習したり、担当者や近くの友だちを見て真似たりしながら、少しずつ上手になってきています。(本村)

2年生 図工の時間に、粘土を使って国語で学んだ「スイミー」に関連した作品を制作し、作業を通して物語についての理解を深めました。粘土の活動は、手先の操作性を高めるだけでなく、手本をよく見て大きさや形を構成する力も養える活動です。考え、工夫しながら作ったものはどれも表情や動きがあり素敵な作品ができあがりました。(壺岐)



どんなうちわができるかな？



曲に合わせてポンポポポン！



物語「スイミー」に出てくるよ



漢字のパズル

3年生 国語で「漢字の部首」を学習しました。オリジナルのスライドショーに合わせて「にんべん！」「きへん！」「ごんべん！」など大きな声で歌って部首名を覚えたり、部首ごとに漢字を書いたりしました。また、へんとつくりに分けたマグネットを、手本どおりに組み合わせて漢字を作ったりもしました。視覚教材を使うことで、どの子どもも興味を持って学ぶことができました。(宮下)



よく聞いてジャンプ！

4年生 体育の授業でステップサンバという活動を楽しみました。図形や色、数字が書かれたマットの上に立ち、「1、2、0、ハイ！」といったリズムに合わせて言われた通りの順番にステップを踏んでいく運動です。この練習を通して、指示を聞いて記憶する力、数字を目で探す力、リズムに合わせて体を動かす力など、様々な力を養うことができました。(柳澤)



「からたちの花」暗唱

5年生 4月から続けている学習の一つとして、音読を行うようにしています。詩「からたちの花」では、ほとんどの児童が全文暗唱することができました。7月中旬から8月にかけては、物語「たずねびと」の学習を行っています。「グループ全員が聞き取れる声で読む」「聞き取りやすいテンポで読む」ということを目標にしています。(藤本)

6年生 円の面積の公式「半径×半径×3.14」を復唱し、円の面積の求め方を覚えました。授業ではクラスの皆が答えられるよう、円周率は？ 円の面積の公式は？ と何度も質問を繰り返して取り組みました。円の面積を求めることができれば、応用問題も解けるようになります。有名な公式なので、しっかり覚えて欲しいと思います。(芳ヶ迫)



円の面積の応用

中学生 コンピュータの授業で、タイピングソフトを使ってのローマ字入力練習を繰り返し行っています。またその発展課題として、国語の物語文や説明文の文章をタイピングする課題にも取り組んでいます。文字の入力だけでなく、適切な変換のタイミングや間違えた際の修正の仕方など、文章を打つ時に必要なスキルも同時に学んでいます。(宮川)

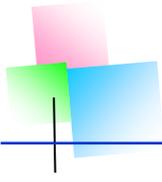


説明文の文章を入力しよう

ラーニングプログラム 子どもたち個々の教育的ニーズに応じて、認知や学力を高めるための個別指導を行っています。誰もが「やった！」「できた！」という気持ちを感じながら楽しく学習を積み重ねていけるように、年齢や理解度はもとより個々の特性に応じて教材や課題を工夫しています。(宮下)



「できた！」を大切に



コラム 教えてもらったこと(1)

知識と経験

明地 洋典(京都大学教育学研究科准教授)

これまで武蔵野東学園の皆様や研究教育生活の中で関わってきた方々から、大切なことを多く学ばせていただきました。本号からの全4回の連載では、それらについて書いていきたいと考えています。今回は、経験の大切さについてです。

はじめは、大学院生に成り立ての僕を、指導教員の長谷川寿一先生、先輩の菊池由葵さんが自閉症研究に誘ってくださったことでした。自閉症に興味はあったものの、知識は浅いものでした。しかし、二つ返事で参加を決めたように思います。先に当事者の方々の思いに触れていたら、責任を感じて躊躇したかもしれません。

いつも武蔵野東学園の先生方にご協力いただき、調査依頼をさせていただいています。夏休み期間中に実施することが多いため、この調査のことを僕たちは「夏の実験」と呼んでいます。調査参加者の皆様との集合場所は大学の正門前

で、駒場東大前駅の目の前です。そこで待っていると、改札から階段を降りてくる皆様の姿が最初に目に入ります。

僕にとって初めての「夏の実験」が始まり、メンターの千住淳先生と正門前で待っていると、階段を降りてくる人の中に、階段を昇り直して、また降りてくる人がいました。千住先生はすぐにその子だと気づきました。経験を通して僕も今ではちょっとした仕草などから特性に気づくようになりました。これは経験知(言語化が難しく「暗黙知」とも)と呼ばれます。

実験の前後や休憩中には、参加者や保護者の方々、他の実験者と様々なやりとりをさせていただきます。その中で、自閉症とは、発達とは、人間とは何かということ、経験知として学ばせていただいていたと感じています。それは本や論文からは学べません。子どもの言語獲得はよい例ですが、

「○○とは□□だ」のような形式的な定義や他者の経験でなく、自らの1つ1つの経験から得たものが知識の基盤になります。上記の階段の例も、そういった経験の例です。



経験の機会を与えていただいていることもそうですが、そういった経験を通して、経験の大切さを教えていただいたことにも感謝しています。今は大学で教える立場にいますが、経験したからこそ教えられることがあります。一方で、経験知を伝える難しさも感じており、学生の皆にも経験や体験をする機会を提供することを重視したいと思っています。次回以降も、経験を通して得たこと、教えていただいたことについて書いていきたいと思っています。

このコラムは4回シリーズでお届けします。

保護者勉強会のご案内

教育センターのスタッフがお話いたします。開催一週間前までにお申し込みください。

- 【第2回】 10月26日(水) 10時~12時
「子どもの発達に応じた絵本の楽しみ方」
本村 由佳
「文章読解の指導」 宮川 健大

- 【第3回】 2023年1月26日(木) 10時~12時
「言葉や概念理解を促すおもちゃや教具」
壹岐 博子
「親子でできる簡単なヨガとビジョントレーニングの紹介~ダンス教室での実践を通して~」
益田 実季



武蔵野東教育センター

〒180-0012 武蔵野市緑町2-1-10
電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595
Email: education-center@musashino-higashi.org

ホームページをご覧ください
<http://www.musashino-higashi.org>

セミナーのご案内

- 【第2回】 11月18日(金) 10時~12時
「楽しく豊かな運動で脳フィットネスを高めよう」
征矢 英昭 (筑波大学)

- 【第3回】 2023年2月8日(水) 10時~12時
「専門用語を使わない障がいのある子の『親なき後』の『お金』の話」
鹿内 幸四朗 (日本相続知財センター)
※第3回は募集を終了いたしました。